

… 雨でも休まず；第116、117、回 …

「若柳・嵐山の森」から

・活動1：森林作業に注力：10月4日(第一土曜日)、参加費300円

・弁当持参。

・活動2：里山交流の活動：10月19日(第三日曜日) 参加費500円

・弁当は主食(麩パン)だけ持ってくる事、自分の食器(箸・皿・お椀)も持参。

副食は、土地のもので作る／同じ釜の飯を食うことが嬉しい。

* 活動1・2とも「ボランティア保険加入」ため申込必要

TEL & FAX 03-3411-1636

・集 合：相模湖駅前：9時15分まで待つ。8時42分、9時02分のJR高尾発

・服 装；汚れても良い格好・着替え 着替え 足元が滑らない履物

・持 参 品；軍手、自分の食器(箸・皿・お椀)持参、万一の怪我に備えて…保険証写し
そして、作業を楽しむ“ゆとり”と怪我をしない「心構え」

森を生かすために…木を売る仕組みつくり

木が燃料や住宅に使われていた頃は、森に人が入ってそれなりに管理されていたが化石燃料（石油・石炭）や安い外国産の木材が入るようになって、それが適わなくなってしまった。植林した森に人手が入らぬようになって荒れる一方だ。水源環境税などが検討されているが、何とかして木を売れる仕組みが作れないかと純国産材の木造住宅に取り組む大工さんの集まり「共同組合 匠の会」と話し合いを始めている。

話し合いを森の中でしようと去る9月10日、相模川の上流：山梨のFSCの認証を取得した森と甲斐東部材製材工場を見学した後、「匠の会の人々」と話し合った。参加者、総勢51人と真剣な討議となった。実際に家を建てる話となると現実の荒れた森とのギャップが大きく、これをどのようにして埋めるか至難な事だが、何もしなければ森は、崩壊するだけだ。全ての人々が痛みを分かち合って取り組む事だけが唯一の解決策と思う。それをどう行動するか継続して話し合う。

活動報告 1：森林作業／第一土曜日（9月7日）

・快晴・猛暑、女性4人を含む

25人参加。

- 「基地から一番離れた尾根筋の下草刈りと欠頂木の伐倒作業をする。昼休みに基地には戻らない。昼食と水を持参する事」との園田隊長の指揮に女性3人を含む15人が参加。

猛暑の急斜面の作業はつらい。

汗は流れ出る、喉は乾く、息は切れる、足は滑る。

それでも15人の作業は、さすが人数。摃った。

作業も尾根筋の獣道に出るとヒヨッコリと2人連れのハイカー

に出くわして双方、びっくり。こんなところで年配女性の森林作業員が汗水垂らして働いているのをハイカーたちは、目を丸くして驚いていた。作業前の隊長の注意事項は…。



“ジャンボ・ひまわり”を収穫した、兼松まゆみさん

◆ 真夏の作業注意

1)水は、多めに飲む事、脱水が怖い

*無理して脱水して体温が落ちてしまうと危ない。

2)疲れたらすぐ休む

3)熱射病は、衣類を脱がせてヒタスラ冷やす

◆ 蜂に注意

1)この時期、蜂が凶暴。偵察蜂が来たらソッと

その場を離れる事。幾度か刺された人は、過激に身体が反応するから特に注意。

2)刺されて慌てて転がり落ちる等が危ない

3)刺されたら冷やす

その年配の女性隊員；吉田英子さんに森林作業の感想を聞いた。「何がなくてそんな辛い作業に参加するのですか？」に吉田さん（ン？才：見たところ55歳位か）の曰く。「辛くても、美しくなっていく森と作業終了後の快い疲労感は、何ものにも代え難い心地好さがありますよ。森に参加するようになって私、健康になっただけでなく若くなりました」由。畑班は、ヒマワリの種を収穫した。

活動報告 2：里山交流 第三日曜日（9月21日）：台風16号接近の雨の激しく降る森に“まさかの31人”が集まった。

「森が美しくなるのが嬉しいから作業に入りたい」と主張する数人に「こんな日にもし、事故でも起こしたら不注意・無鉄砲・無責任の批判も起る。第一、森仲間に事故を起こさせない責任が会にある」となだめ、そして、この森には、大きな栗林があって鈴木オジイサンも「皆さんため、この数日は、栗拾いはしていないから栗が沢山、落ちています。お好きなだけ拾ってお持ち帰りなさい」と勧めて下さる。…と言う訳で「栗拾いと雨の中の森を楽しむ会」に変身した。

昨夜、畠野仲間から「猪の肉が大量に入ったから、あした持って行くよ～」と電話があって、鍋奉行班から「今日のお昼は、猪汁に猪 焼き肉」の報告に皆、沸き上がる。“午後は何もない、森を楽し

2. 匠の会：山梨FSCの森視察

9月10日、尾形理事など、当会関係者5名+匠の会会員34名+山梨林業関係者12名、計51名でFSC認証の森見学後、「相模川・桂川流域材」が住宅用建材として使えるか否か、品質・数量・製材技術・流通など話し合った。

「匠の会」は、只、家を建てる大工さんの集まりではない。わが国の伝統住宅工法と先端建築技術および家を建てる思想も確かめられる厳しい入会条件を突破した人々である。この会合の結論は「施主様(註)の納得・満足と事業として成り立つかと言う現実的な問題と森を守ると言う理想・思想とのギャップをどの様に埋めるか。「匠の会」の山梨FSCの森に対する意見・要望は厳しいもので火花が散る程の緊迫感に終始した。だが、現状の荒れて行く相模川流域の森を回復するのは至難の技だが、空気・水は、自分自身の問題。放置できない。どこまでこれを埋められるか、森側と話し合いを継続する」事となった。

もし、そう言う努力が実になって相模川流域材が出荷できるなら、純国産材住宅とわが国の林業に希望の持てるじゃないか。匠の会：25周年記念事業として「FSC材／檜の家」をテーマに取り組みを継続的に進めるとして散会したが、最後ギリギリのところで流域材の活路が開けた印象。6年間“雨でも休まずの活動”が「森と大工さんの仲人役」として思いがけないところで成果を得る事になるのか。

● 活動の強化のために … 事務局組織の充実

第一回目の通常総会を6月を経て、会員の会運営に対する意識が急速に高まった。7月・8月の運営会を経て、現行の石村一人の事務局を以下のように強化する事とした。



任意団体「さがみ湖・森つくりの会」の森林活動が長かったから、法人になって始めての第一回通常



むだけ”と決定し、お昼には誰かがお酒を準備した。森の達人たちは、台風接近のこの日もテントの下で“雨でも休まぬ活動”を実践して森と調和した。森は、常にわれわれを歓迎して待っていてくれる。

「第4回：甲州古道復活プロジェクト／8月23日」 報告：加藤岑夫



上野原駅に22人が集まった

5月にスタートしたこの会は、参加者も増加、22人が上野原駅に集まった。

本日のコース：上野原町の約10km。

県境：境川諏訪の関跡～上野原本陣（天然記念物：大ケヤキ）～鶴川の渡し（鶴川宿）～長峰砦跡～野田尻

- ・炎天下、10kmの古道探索となった。
- ・水の便が悪かった上野原町は火災が多く本陣は失われている。樹齢800年の大ケヤキは、永い歴史を見守り神秘的だ。
- ・古道唯一の人夫による鶴川の渡しは、渡しの人夫が恐ろしかったそうだ。
- ・長峰砦は、相模の国が甲斐の国の攻め入る時の重要拠点だそうだが、跡形も無かった。

- ・野田尻宿は、当時の雰囲気の残る静かな町並み。宿場町入り口は通常鍵形だが、この町の入り口は楕形になっていた。絶えず他の攻撃に晒されていたのだろう。また、宿場町の定めは厳しく、一人が罪を犯すと連帯責任で皆同罪になったそうだ。個人の人権・生命が守られる平和な現在が有り難い。
- ・次回、9月27日は、この便り到着直後となるが道は、石畳みの残る恋塚一里塚や安藤広重の“犬目峠の富士”的現場を通るが古道の雰囲気が多く残る道となる。沢山の参加を募る。

- 大きな動き2件 1、県森連合（神奈川県森林組合連合会）との話し合い。
2、「協同組合：匠の会」と山梨FSCの森を視察した。

1、県森連と話した。

当会の理事にして津久井森林組合の理事をしている尾形さんのお引き合せで佐藤喜美蔵組合長に面会して森林組合との協働を申し入れた。役割分担として我々は、森林組合から森林作業のハード面を教えてもらい、我々は、新しい森林の公益性・多様性のソフト面を提供する。この話は、県森連にも協力して貰うが良いと佐藤組合長からご提案を頂いた。この事を森を貸して下さっている鈴木重彦氏に報告したら鈴木氏は、「それでは、私が案内してやろう」と言う事になった。「県森連の久保寺会長とは、県議当時の旧知の間柄でね」と言う事であった。

県内17の森林組合を束ねる県森連訪問の9月17日、幸運な事に河口代表理事も在席で一気に事が運んだ。即ち「良案と思われる“緑のダム北相模”からの提案は、大いに支援する」と言う快諾が得られた事だ。

総会後、活動運営会に少し混乱があった。活動の内容を定款第5条（事業）で再確認しておく。

特定非営利活動に係る事業	参考：現在の取組事業
1) 森林の維持・管理・保全に係る受託・委託事業	協力協約の森林整備など
2) 社会（環境）教育の推進を図る受託・委託事業	緑のダム学級
3) 森林地域の活性化を図る受託・委託事業	流域通貨リバー
4) 森林地域の文化・芸術・スポーツの振興を図る受託・委託事業	甲州古道復活プロジェクト
5) 自然保護を図る調査・研究・出版・図書発行事業	生態系調査
6) ナショナルトラスト運動	/
7) 森林整備ボランティア活動	森林整備活動と里山交流

活動は、新しい局面を切り開いている。森林組合・業界（匠の会）・行政と本格的に森林活動を協働しようと言う事だ。学界（東京農大；森林政策研究室他）も協力してくれている。森林N P Oがこれらと協働してF S C認証の森に取り組むのはわが国、初めてと言う事になる。それだけに新たな障害も次々と現れる。だが、挫けない。「森林破壊と言う負の遺産を子孫に残さない」ために…。

流域通貨／リバーリバーの事（報告）

吉田さん、伊藤さんが相模湖町商工会と進めている「流域通貨リバー」打ち合わせ会が9月1日、相模湖町商工会館で行い以下を確認した。

- 1) 地域通貨・流域通貨の意味を広く啓蒙する。
- 2) 相模湖町商工会は、ポイント制の導入を検討中。それとの連携を進める。
- 3) 運営は、N P Oおよび地域市民団体に委託
- 4) 地域だけでなく広い範囲のN P O、観光客に普及する。

早稲田町との交流（報告）

丸茂さんを中心に相模湖町で進めている早稲田町との交流事業は、9月10日、早大限講堂前広場で行った。

緑のダムから7人+相模湖町から7人、計14人が早稲田正門前の一等地で「森林の荒廃」を訴えた。イベントの鋸引き体験は、子供から大人まで順番待ちの盛況。当会会員・小5年の邦久が指導員を立派に勤めた。中山新宿区長も立ち寄って労ってくれた。

緑のダム体験（予告） 斎藤憲弘

今年四月から斎藤さんが取り組んでいる「緑のダム in 北相模」教室は、神奈川県／企画部との提携などを通じて10月19日(第三曜日)に一般公募で実施する。また、沢山の森林仲間のご協力をお願いする。

甲州古道復活（緊急） 加藤峯夫

10月27日、上野原駅集合、9時30分
今回は、素晴らしい古道探査になる。乞参加

やまなみ五湖：自遊自感フェア（予告）

期：9月27日～28日
於：東名高速 海老名サービスエリア
体験コーナー 篠竹紙鉄砲つくり 松尾さんなど
丸太切りなど 斎藤さん
販売コーナー ぶつ切り丸太 大坪さん
ベンチ・テーブル 畑野さん
森関係図書 丸茂さん
広報コーナー F S C関係 吉田さん
F C C関係 倉橋さん
* 県／企画部に協力。森仲間の参加歓迎。

「ひばりより上にさぶろう峠かな」

芭蕉の名句に詠まれた峠より、黒木の林（杉・檜などの針葉樹）やぞう木林（椿・くぬぎ・桂など広葉樹）の木洩れ陽の下山道を1キロほど降りると、かつて茶店があった中峠です。

さらに、中峠より0.8キロ降りると中央自動車道のアクセス道路に出ます。甲州道中は、この辺より、JR中央線小仏トンネルの入り口付近から屋号「橋場」の塚本さんのいえのところへ出ました。往時は、この地に底沢川を渡る長さ7間、幅2間の板橋が架っていました。

更に、現在の山吹団地より町道底沢線を横切り、馬頭観世音碑より上段の杉林の中を通り長久保団地に降ります。往時は、この地の大久保沢川に架かる長さ5間、幅9尺の横谷路沢橋を渡りました。

ここより小原トンネルの東出入り口の線路を越え、坂道を上り小原プールの西側を下り、本陣東脇より小原宿に入りました。この東入り口に高札所があり、2町半の宿並に29軒の家があり、その中に本陣と脇本陣と7軒の旅籠がありました。

尚、底沢に下った甲州道中は、明治29年からの中央線付設工事と昭和44年の中央自動車道工事のため通る事ができません。従って、町道底沢線を国道20号線へ出て、小原宿に出る迂回路を通らねばなりません。

今、「甲州古道復活プロジェクト」が甲州古道を復元するための活動を展開しています。近年中に、小仏峠より小原宿間の古道が復活し、甲州道中ファンの夢の再現を図る事ができるでしょう。

- 伝えたいこと
- セブン－イレブンみどりの基金／パートナーシップ資金」を支援金に頼らずに活動を維持する仕組み作りに当てる事として、事業応募を求めた。4事業班と話し合いを進める。いろんな提案をして真剣に考え、取り組んでくれる仲間たちに感謝の気持ちで一杯だ。
 - 森を再生させる協働事業は、「匠の会」と始まったばかりだが、我々一般市民／生活者が本気で森を心配して行動に移した意味を林業行政は、真剣に受け止めて欲しい。
 - 台風16号の接近する風雨の森に「物好きな誰かが来ているだろうか」と各人、思いながら相模湖駅に降り立ったら、同じ想いの31人の森林仲間が集まつた。さすがに作業は、取り止めにし「雨の森の観察会」に変身して“雨でも休まぬ”活動を継続できた。お昼は、畠野仲間が持参してくれた大量の猪の肉で「猪汁・猪焼き肉」と気を利かせてくれた誰かの差し入れのお酒で“森林感謝祭”となり森への感謝を語り合つた。嬉しい。

- 1) 10月4日(第一回)：若柳嵐山の森
9時30分、森に集合、弁当持参
参加費300円、同日／運営会
2) 10月19日(第二回)：若柳嵐山の森
9時30分、森に集合、飯のみ持参
参加費500円、里山交流

モットー／急がず、休まず、楽しく、無理せず、ボチボチ…
そして、沢山のご意見、参加下さい。
名 称／さがみ湖・森つくりの会(NPO法人様のダム北相模/森林部会)
事務局／〒154-0023 世田谷区若林3-35-9
 石村 黄仁
 T & F 03-3411-1636
協働団体／セブン－イレブンみどりの基金

H P : h t t p : // w w w 0 0 8 . u p p . s o - n e t . j p / k i t a s a m i